

Renesas Peripheral Driver Library および Peripheral Driver Generator ご使用上のお願い --RX630グループマイコンのIEBus使用時の注意事項--

Renesas Peripheral Driver Libraryおよび Peripheral Driver Generatorの 使用上の注意事項を連絡します。

- RX630グループマイコンのIEBus使用時の注意事項

1. 該当製品

- RX630 Group Renesas Peripheral Driver Library V.1.00
- Peripheral Driver Generator V.2.04以降

2. 内容

該当製品を使用して生成されたコード中で、IEBusでのデータ送受信完了後、以下のいずれかのコールバック関数が呼び出される場合は、IEBus送受信ステータスレジスタのクリアが必要になります。

- (1) 該当Renesas Peripheral Driver Libraryの以下のコールバック関数を使用する場合
 - R_IEB_MasterSend関数
 - R_IEB_MasterReceive関数
 - R_IEB_SlaveMonitor関数
- (2) 該当Peripheral Driver Generatorで以下の関数を設定した場合
 - IEBのコールバック関数

IEBus送受信ステータスレジスタのクリアを行わない場合、ステータスレジスタをクリアするまでIEBus割り込みが発生し続け、その度、コールバック関数が呼び出されます。

2.1 発生条件

- (1) Renesas Peripheral Driver Libraryの場合

R_IEB_MasterSend関数、R_IEB_MasterReceive関数、または
R_IEB_SlaveMonitor関数の引数にコールバック関数を設定している。

(2) Peripheral Driver Generatorの場合

以下のいずれかの設定を行っている。

- IEBの「マスタ送信方法」リストから「全データの送信完了、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択。
- IEBの「マスタ受信方法」リストから「全データの受信完了、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択。
- IEBの「スレーブモニタ方法」リストから「全データの受信完了、スレーブリード要求、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択。

2.2 発生例

(1) Renesas Peripheral Driver Libraryの場合

```
-----  
// スレーブの送信データをセット  
R_IEB_SlaveWrite(  
    0,  
    iebus_data,  
    iebus_data_length  
);  
  
// IEBusのR_IEB_SlaveMonitor関数にコールバック関数を設定  
/* Monitor channel 0, using polling */  
R_IEB_SlaveMonitor(  
    0,  
    iebus_data,  
    &iebus_data_length,  
    IEB_CALL_BACK_FUNC  
);  
  
// コールバック関数でステータスフラグをクリアしない  
Void IEB_CALL_BACK_FUNC(){  
  
}  
-----
```

(2) Peripheral Driver Generatorの場合

(a) IEBのデータを下のとおり入力する。

- 「マスタ送信方法」リストから「全データの送信完了、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択。
- マスタ送信の「通知関数名」に Ieb0MasterTrFunc を入力。

(b) 以下のプログラムを実行する。

```
-----  
void SetupFunction(void)  
{
```

```

uint8_t tx[]="ABCDEFGH";
R_PG_IEB_Set_C0(); // IEBの設定
R_PG_IEB_MasterSendData_C0( 1, tx, 5); // マスタ送信
}

void Ieb0MasterTrFunc(void){
    Function(); // 送信完了時処理 (送信ステータスレジスタを
                // クリアしない)
}
-----

```

3. 回避策

コールバック関数内で、R_IEB_GetStatus関数を用いて以下の処理を行なってください。

(1) 送信完了フラグのクリア

- R_IEB_GetStatus関数をコールし、送信完了フラグ (第3引数のbit5) が "1" (送信完了) であるかを確認する。
- 送信完了フラグ (第3引数のbit5) が "1" である場合、以下の処理を実施する。

```
IEB.IETSR.BYTE = 0x6Fu; // 送信ステータスフラグのクリア
```

(2) 受信完了フラグのクリア

- R_IEB_GetStatus関数をコールし、送信完了フラグ (第3引数のbit5) が "1" (送信完了) であるかを確認する。

```
IEB.IERSR.BYTE = 0xFFu; //受信ステータスフラグのクリア
```

3.1 Renesas Peripheral Driver Libraryの回避例

```

// スレーブの送信データをセット
R_IEB_SlaveWrite(
    0,
    iebus_data,
    iebus_data_length
);

// IEBusのR_IEB_SlaveMonitor関数にコールバック関数を設定
/* Monitor channel 0, using call back function */
R_IEB_SlaveMonitor(
    0,
    iebus_data,
    &iebus_data_length,
    IEB_CALL_BACK_FUNC
);

```



```

    0,
    0
);
if(complete){
// 送信ステータスレジスタのクリア
    IEB.IETSR.BYTE = 0x6Fu;
}
Function(); // 送信完了時処理
}

```

- (2) IEBの「マスタ受信方法」リストから「全データの受信完了、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択し、マスタ受信の「通知関数名」に Ieb0MasterReFuncを入力した場合の回避例
-

```

// マスタ受信通知関数
// I/Oレジスタ定義ファイルのインクルード
#include "iodefine_Renesas Peripheral Driver Library.h"

void Ieb0MasterReFunc(void){
    bool complete;
    uint8_t count;
// 受信完了フラグの取得
    R_PG_IEB_GetReceiveStatus_C0(
        0,
        0,
        &complete,
        0,
        0,
        0,
        0,
        0
    );
    R_PG_IEB_GetReceivedDataCount_C0(&count);
    if((complete)&&(count)){
// 受信ステータスレジスタのクリア
        IEB.IERSR.BYTE = 0xFFu;
    }
    Function(); // 受信完了時処理
}

```

- (3) 「スレーブモニタ方法」リストから「全データの受信完了、スレーブリード要求、エラー検出を関数呼び出しで通知する」を選択し、スレーブモニタの「通知関数名」に Ieb0SlaveFunc を入力した場合の回避例

```

-----
// I/Oレジスタ定義ファイルのインクルード
#include "iodefine_Renesas Peripheral Driver Library.h"

// スレーブモニタ通知関数
void Ieb0SlaveFunc(void){
// 送信完了フラグの取得
    bool tx_complete;
    bool rx_complete;
    uint8_t count;
    R_PG_IEB_GetTransmitStatus_C0(
        0,
        &tx_complete,
        0,
        0,
        0,
        0
    );
    if(tx_complete){
// 送信ステータスレジスタのクリア
        IEB.IETSR.BYTE = 0x6Fu;
    }
// 受信完了フラグの取得
    R_PG_IEB_GetReceiveStatus_C0(
        0,
        0,
        &rx_complete,
        0,
        0,
        0,
        0,
        0
    );
    R_PG_IEB_GetReceivedDataCount_C0(&count);
    if((rx_complete)&&(count)){
// 受信ステータスレジスタのクリア
        IEB.IERSR.BYTE = 0xFFu;
    }
    Function(); // イベント検出時処理
}
-----

```

4. 恒久対策

今後のバージョンで改修する予定です。

[免責事項]

過去のニュース内容は発行当時の情報をもとにしており、現時点では変更された情報や無効な情報が含まれている場合があります。ニュース本文中のURLを予告なしに変更または中止することがありますので、あらかじめご承知ください。

© 2010-2016 Renesas Electronics Corporation. All rights reserved.